



第24回常任理事会

日時 平成21年3月10日(火) 18:00~19:45
場所 北海道医師会館9階・理事会室
出席者 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、柳山・山本・北野・渡邊・三戸・小山・目黒・藤井・藤原・深澤・西里・直江・橋本・前川各常任理事、高木・水元・中村各監事

(事務局：島影事務局長ほか12名)

協議事項

第1号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件(渡邊常任理事)

申請のあった日医生涯教育講座28件、道医認定生涯教育講座25件、合計53件を承認することと決定。

報告事項

1. 平成20年度産業保健各種研修会について

(小山常任理事)

本年度も当会主催の産業保健研修会や産業医学基礎研修会、郡市医師会に委託しているリフレクチャー研修会等を各地域で開催し、延べ1,376名が受講した。

2. 北海道産業保健活動推進協議会[2月26日(木)]について(小山常任理事)

会長に北海道産業保健推進センターの三宅所長、副会長に北海道労働局の島谷労働基準部長と当会の畑副会長を再選。各委員から自己紹介の後、平成20年度北海道医師会産業保健各種研修会については小職より報告し、第11次労働災害防止計画の概要、業務上疾病認定状況、労災補償状況等については北海道労働局担当者より説明があり、意見交換が行われた。その後、懇親会において、長瀬会長、福島労働局長から挨拶があった。

3. 糖尿病市民講演会[2月27日(金)・紋別市]、糖尿病講演会[3月7日(土)・留萌市]について

(藤井常任理事)

当会ははじめ紋別・留萌両医師会、関係団体の主催によりそれぞれ開催した。両会場とも4人の講師から糖尿病やメタボの原因、合併症、食事療法、運動

療法に関して講演があった。参加者は紋別が170名、留萌が140名であった。

4. 地域医療に関わる地域別意見交換会、第2回医療政策等検討委員会[2月28日(土)]について

(直江常任理事)

地域医療の現状について、長瀬会長をはじめ関係役員が各地に出向いて地域の状況を伺う意見交換会を、昨年に引き続き3カ所(1/31伊達市、2/7北見市、2/19千歳市)で開催した。各地域では各科にわたる医師不足、救急医療確保の苦労話など、多数の意見をいただいた。

この結果をもとに「第2回医療政策等検討委員会」を開催し、委員からは近隣医師会も含めた連携体制の推進などの提案があり、地域医療について住民とともに話し合うことの重要性などについて検討した。また、レセプトオンライン請求完全義務化が医療機関の負担を増大させるとして、反対の姿勢で臨むことを確認した。

5. 自賠責保険研修会[3月1日(日)]について

(目黒常任理事)

日本損害保険協会の自賠責保険運用益拠出事業の一環として、日本損害保険協会北海道支部、損害保険料率算出機構札幌自賠責損害調査事務所、当会の三者で本研修会を開催した。学術講習では『交通事故による中・重度四肢外傷と後遺障害』をテーマに札幌徳洲会病院整形外科外傷部医長・辻英樹氏より講演がなされた。また自賠責講習では『自賠責保険の仕組みについて』をテーマに損害保険料率算出機構調査課長・野中憲二氏より講演がなされた。参加者は65名(医師12名、自賠責保険請求事務担当者48名、損保関係者5名)であった。

6. 日医感染症危機管理対策協議会[3月4日(水)]について(三戸常任理事)

唐澤会長の挨拶に続き、厚生労働省の各担当者から「麻しん対策」「新型インフルエンザ対策の概要」「新しい肝炎総合対策」について説明があり、その都度フロアとの質疑応答が交わされた。詳細は道医報(4月号)にて報告の予定。

7. 都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会[3月5日(木)]について(前川常任理事)

唐澤会長の開会挨拶後、三上常任理事より平成21年度介護報酬改定について、改定に至るまでの経緯や主な視点および4月から変更となる要介護認定方式について、問題点を含め説明が行われた。また、鈴木康裕厚生省老人保健課長からは介護保険制度をとり巻く状況を説明するとともに、今回の改定率の増については、主に介護従事者への処遇改善などが中心となったこと、さらに制度上の今後の課題、要介護認定の見直しなどについて説明が行われた。続いて質疑応答があり、最後に竹嶋副会長より総括が行われた。

8. 在宅緩和ケアに関する従事者研修事業[3月7日(土)]について(渡邊常任理事)

札幌医大麻酔科・並木教授が中心となり「在宅がん緩和ケアの普及を目指して」をメインテーマに開催した。出席者は49名。前半は千葉県医師会所属・さくさべ坂通り診療所長大岩孝司氏より「在宅緩和ケアー現場からのメッセージ」について講演が行われた。続いて、坂本仁坂本医院長が座長となり「在宅緩和ケアにおける在宅療養所の現状と展望」をテーマにシンポジウムが行われ、山下浩介北斗クリニック院長より「十勝地方のがん患者在宅療養の現状」、林敏サンビレッジクリニック院長より「在宅緩和ケア16年の試み」、前野宏ホームケアクリニック札幌院長より「在宅ホスピス専門の診療を立ち上げて」の各々発表があり、その後総合討論が行われた。

9. 日医各委員会報告

(1) 救急災害医療対策委員会[2月25日(水)]について(目黒常任理事)

諮問「救急災害医療における連携のあり方」「医師会の災害時医療救護対策」ならびに今後の審議の進め方について検討した。

(2) 定款・諸規程改定検討委員会[2月26日(木)]について(宮本副会長)

代議員会、役員選挙等に係る日本医師会定款変更(案)について協議した。今後も内閣府と連携をとり、細部につき検討していく予定である。

(3) 健康スポーツ医学委員会[2月26日(木)]について(榊山常任理事)

諮問事項の「認定健康スポーツ医活動のための具体的方策ーカリキュラムの改定を中心としてー」を議事とし、新カリキュラム案やマニュアル等について検討した。

(4) がん対策推進委員会[2月27日(金)]について(畑副会長)

会長諮問の「がん検診の今後のあり方ー検診受診率向上と精度管理システムー」に関してフリートークを行った。また、がん検診に関するアンケート調査について検討した。

(5) 医事法関係検討委員会[2月27日(金)]について(橋本常任理事)

「応招義務」について重点的にディスカッションを行った。来年度も引き続き、協議される予定。

(6) 労災・自賠責委員会[3月4日(水)]について(目黒常任理事)

冒頭、日医・石井常任理事より中央情勢報告(診療費審査委員会の積極的活用等に係る取り組みに関する報告等)がなされた。続いて議事に移り「労災認定及び後遺症認定に係る適正な運用について(ガイドライン作成の検討)」「平成22年度改定に向けての要望事項」「損保協会、損

保料率算出機構との協議会に向けての議題」について協議した。

(7) 介護保険委員会[3月5日(木)]について

(三宅副会長)

三上常任理事より、介護報酬改定に至るまでの動きについて、社保審介護給付費分科会において「介護従事者の人材確保」「医療との連携や認知症ケアの充実」「効率的なサービスの提供や新たなサービスの検証」を中心に、検討されたことなどの説明があった。

(8) 勤務医委員会[3月6日(金)]について

(三宅副会長)

勤務医委員会答申の作成および日医ニュース「勤務医のページ」メイン記事案、勤務医座談会等について検討を行い、その後、委員から「インフォームドコンセント」「新医師臨床研修制度」についてプレゼンテーションが行われた。

(9) 男女共同参画フォーラム準備委員会[3月8日(日)]について(藤井常任理事)

7月25日に札幌市で開催する本フォーラムのプログラム、演者等の検討を行った。

シンポジウムは「今、医師の働き方を考えるーとともに仕事を継続するためにー」を大テーマに、「医師の働き方の現状と問題点、改革への提案」「医師の働き方はどう改革したらいいかー育児支援中の男性医師の視点を通してー」「医師に対するキャリア教育」「地域医療連携の中での医師の働き方ー新医師臨床研修制度を含めて」等の演題を予定し、講師については今後検討することとなった。

10. 外部各委員会報告

(1) 第2回北海道精度管理システム運営委員会[2月26日(木)]について(北野常任理事)

平成20年度外部精度管理調査の実施結果の報告があり、その後、平成21年度の実施方針について検討を行った。なお、本事業の概要および報告書は、北海道保健福祉部医務薬務課ホームページに掲載することとした。

11. 各部報告

(1) 第7回医療政策部担当理事会[2月24日(火)]について(直江常任理事)

第131回定時代議員会の「当面の医療政策」について、提案事項、担当者を決定した。

第26回常任理事会

日時 平成21年3月24日(火) 18:00~20:07
場所 北海道医師会館9階・理事会室
出席者 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、柳山・北野・渡邊・三戸・目黒・藤井・深澤・西里・直江・橋本各常任理事、高木・水元・中村各監事
(事務局：島影事務局長ほか11名)

協議事項

第1号 第131回北海道医師会定時代議員会の処理事項に関する件(深澤常任理事)

3月14日・15日開催の定時代議員会で採択された決議文を日医会長、都府県医師会長、郡市医師会長、国会・道議会議員、政党、関係省庁、マスコミ等677件に送付することと決定。

第2号 母体保護法指定医師の指定に関する件(深澤常任理事)

3月18日の審査委員会で指定「可」とされた再審1名の申請者を指定医師とすることに決定。

第3号 外部委員会委員等の候補者推薦の選定に関わる内規に関する件(深澤常任理事)

当会が官公庁や他団体等外部から委員会委員の候補者の推薦依頼を受けた場合には、本会会員の中から候補者として推薦するが、非推薦に当たる4項目を盛り込んだ内規を決定。

第4号 北海道社会保険診療報酬請求書審査委員会委員の推薦に関する件(西里常任理事)

支払基金の現審査委員の任期が5月末日で満了となることから診療担当者49名の推薦依頼があった。内科、外科は関係郡市医師会、その他の専門科は各専門医会に推薦を依頼することと決定。なお、第3号議案の「外部委員会委員等の候補者推薦の選定に関わる内規」を添えて推薦依頼することを併せて決定。

第5号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件(渡邊常任理事)

申請のあった日医生涯教育講座30件、道医認定生涯教育講座17件、合計47件を承認することと決定。

第6号 その他

○4月行事予定に関する件

報告事項

1. 都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会[3月13日(金)]について(渡邊常任理事)

唐澤会長挨拶後、飯沼常任理事より生涯教育関連事項、また、福井委員長より改定された「生涯教育カリキュラム2009」について各々報告説明があった。続いて、池田日本専門医制評価・認定機構理事長が「わが国の専門医制度－現状と課題」と題した講演を行った。質疑応答では「地域医療、保健、福祉を担う幅広い能力を有する医師」のあり方などについて、討論が行われた。

2. 4大学連携および教育病院共有化による地域大学循環型専門研修プログラム第1回シンポジウム[3月13日(金)]について(長瀬会長)

標記のプログラムは、道内三大学と東京慈恵医科大学病院および道内約200病院が連携して、初期臨床研修終了後にプライマリケア能力と専門診療能力を兼ね備えた真に応用力のある専門医を育成するために企画・設置されたものである。その第1回シンポジウムが札幌市内のホテルで開催され、近藤哲北大腫瘍外科学教授と鈴木清護北大卒後臨床研修センター特任講師の講演2題、三大学の指導医・後期研修医・初期研修医9名によるシンポジウムが行われた。道内外の関係者70名が出席し盛会であった。

3. 北海道自動車保険医療連絡協議会[3月17日(火)]について(目黒常任理事)

損保側委員と、自賠責保険診療の現状・問題点について協議・意見交換した。今年度は「人身傷害補償保険における健保使用」「第三者行為求償事務」「J A、全労済および外資系損保の医療機関への対応」「柔道整復師による施術」を議題とし協議・意見交換を行うとともに、損保側に対し是正すべき事項(代理店の新基準不徹底、医療機関への支払遅延等)を述べ改善要望を行った。

4. 小児救急地域医師研修事業に関する打合せ会[3月19日(木)]について(目黒常任理事)

当会から本年度の研修会の実施状況、北海道小児科医会からは、研修会の際に行ったアンケート結果についてそれぞれ報告した。

5. 日医理事会報告(長瀬会長)

3月17日開催の第13回理事会における報告事項に関して、①日本医学会分科会新規加盟学会の件では、日本レーザー医学会、日本臨床腫瘍学会の2学会の加盟が決定されたこと、②医師の団結を目指す委員会答申の件では、会長諮問「医師の団結に向けた具体的方策」に対する答申書を同日、唐澤会長が受理した等の報告があった。

6. 日医各委員会報告

(1) 男女共同参画委員会[3月11日(水)]について(藤井常任理事)

今回は日医からの8医師会へのテレビ会議により開催し、小職は札幌から参加した。議事では、「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」結果の概要報告があり、その後、短時間正社員制度等について、意見交換を行った。

(2) 生涯教育推進委員会[3月13日(金)]について(渡邊常任理事)

飯沼常任理事より、日医生涯教育協力講座セミナー「ウイルス感染症における予防と治療」について報告があった。また、同セミナー「生活習慣病のUp to Date」を開催する医師会およびインターネット生涯教育協力講座の講座承認が行われた。議事では当委員会内に小委員会を設

置ることが決定された。

(3) **医療政策会議[3月18日(水)]について**
(長瀬会長)

立教大学経済学部池上岳彦教授から「医療における公共部門の役割と財政改革」のテーマで講演をいただいた後、ディスカッションを行った。

7. **外部各委員会報告**

(1) **北海道後発医薬品使用検討委員会[3月12日(木)]について** (三宅副会長)

委員長に北海道薬科大学薬理学分野教授の市原和夫氏、副委員長には小職が指名された。この委員会の他府県における設置の状況等について、事務局より説明を受けた後、薬効・薬理などの学術的な問題や安定供給など具体的な諸課題を洗い出し、提言していくことを目的とし協議に入った。今回委員会として、後発医薬品の使用実態を把握するため、全病院と地域を配慮した無作為に抽出した2,000の診療所ならびに薬局を対象にアンケート調査を行うこととなった。

(2) **北海道精神科救急医療システム連絡調整委員会[3月12日(木)]について** (北野常任理事)

平成10年度から道内8ブロックで実施している精神科救急医療体制の見直しに関する検討作業部会の報告があり、連絡調整委員会として当面、現行の体制を基本とするが、その円滑な運用に向けて課題である関係医療機関との連携や空床確保等の問題に引続き取り組むこととした。

(3) **北海道後期高齢者医療広域連合運営協議会[3月23日(月)]について** (西里常任理事)

平成21年8月時点においては資格証明書の交付は行わず、短期被保険者証を交付することで対応すること、医療費通知については、20年度は3回としたが、平成21年度には2回とし、22年度以降は希望者のみに対し発行するよう調整する方向でいくことが承認された。

(4) **第1回北海道がん診療連携協議会[3月23日(月)]について** (長瀬会長)

各施設等代表者からの自己紹介の後、本協議会の会則により協議会会長に北海道がんセンター・西尾院長を決定。その後、北海道がん診療連携協議会専門部会運営要領(案)が検討され、5専門部会の部会長を選出した。

8. **各部報告**

(1) **平成21年度特定健診集合契約について**
(三戸常任理事)

平成21年度の特定健康診査に関わる集合契約について、各郡市医師会を通じ健診実施機関の参加確認を行ったところ、1,665の医療機関から参加の申し込みがあった。これをもって、契約

代表者(代表保険者)である全国健康保険協会北海道支部長と4月1日付で契約を交わす予定。なお、当会への電子化入力代行依頼は、674医療機関であった。

9. **その他**

(1) **道州制特区提案について** (直江常任理事)

昨年11月の第25回道州制特区提案検討委員会において、参考人として反対の意見陳述をした「公立病院のオープン化に係る医師標準数の特例」が、「過疎地等における病院と診療所の連携に係る特例措置」(開放型病院での医師標準数算定での特例措置)として、第4回知事答申案の項目に再び挙げられた経緯について説明した。この他の約20項目は不採用となっている。

(2) **定款に定められた「理事会及び常任理事会」の整理について** (長瀬会長)

現行の「全理事会」に関して、新年度からは、①会議名称は、当会定款第18条の規定に基づいて正式な「理事会」の名称を用いる、②「理事会」の定例出席者は、同第18条に規定する「理事(会長、副会長、常任理事を含む)」と、同第21条第1項の規定による「監事」のほかには、同第21条第2項に規定する「顧問、参与、代議員会議長・副議長」とする、③当会の理事を兼ねていない日医代議員については、「会長が必要と認めたとき」に出席を求める、④当会定款上の各会議構成員として定めのない日医各委員会委員については、「会長が必要と認めたとき」に出席を求める、との方針が示され、全会一致で了承した。

道総医協関連事項

1. **地域医療専門委員会第2回医療施設整備等検討委員会[3月16日(月)]について** (北野常任理事)

平成21年度医療提供体制施設整備交付金新規申請の審査を行った。

2. **救急医療専門委員会救急告示医療機関審査について** (目黒常任理事)

申し出のあった新規5件、変更1件、更新34件の内容を審査し、了承した。

3. **地域保健専門委員会 第3回循環器疾患対策小委員会(急性心筋梗塞)[3月23日(月)]について**

(三宅副会長)

急性期心筋梗塞の急性期医療プレ調査結果の分析と本調査の要綱・調査票の内容について協議した。